

平成29年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成30年5月

富良野市（北海道）

○計画期間：平成26年11月～平成32年3月（5年5ヶ月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成26年11月以降、認定基本計画に基づき、前計画から「快適生活空間“ルーバン・フラノ”を目指して」を基本コンセプトに、まちなかのコミュニティ再生を目指し、継続した中心市街地活性化に取り組んできた。

今年度は、「まちの縁側」づくりとして整備した核拠点「フラノマルシェ」が、11月に累計入場者数が700万人を達成し、本市中心市街地活性化の象徴的施設としてまちなかの賑わい形成を牽引している。また、「フラノマルシェ」の今年度施設来場者数は、122万2千人と施設開所来8年連続して来場者数を伸ばしており、平成27年度からは、毎年度100万人の大台を超えている状況が続き、民間による積極的な事業展開とそれを行政が側面支援していく仕組み＝フラノ流官民連携が最大限に効果を発揮し、持続可能なまちづくりへと繋がっている。

こうした官民一体となった協働のまちづくりは、中心市街地の地価上昇という波及効果となって現れており、4年連続して路線価においては対前年上昇率「5.9%」上昇、基準地価においては対前年上昇率「4.4%」と共に上昇しており、この2つの地価は上昇前と比較すると約20%上昇している。このことは、中心市街地活性化に向け取り組んできた一つの大きな成果であり、中心市街地全体の価値向上や商店街の資産価値向上等にも波及していくことから、地域経済に及ぼす影響は非常に大きいものとなっている。

こうした好循環の反面、全市人口（住民基本台帳ベース）は減少の一途をたどっており、基本計画認定以降も毎年300人以上のペースで減少が続いていることから、萎縮に歯止めをかける状況に至っていないのが現状である。このことは、観光客をはじめとするまちなかへの流入人口による賑わいと定住人口減による市の過疎化は常に背中合わせの状態であり、安定的なまちなかの賑わい形成を目指していく必要があることから、これからも認定基本計画に基づいた事業実施をはじめ、「ALL 富良野」による継続した官民連携の取り組みが求められている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（中心市街地区域）	平成25年度 （計画期間開始前年度）	平成29年度 （フォローアップ年度）
人口	1,118	1,063
人口増減数	-10	-2
社会増減数	-7	2
転入者数	76	84

2. 平成 29 年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会 of 意見

今年度は、中心街活性化事業として前年度に位置付けた「フラノ・コンシェルジュ整備事業」の事業実施年度であり、二つの商店街に面した大型空き店舗ビルを官民連携により、多機能複合ビルへと再生させる取組みは、官民それぞれが危機感を共有し、短期間で事業実施に至ったことを高く評価する。このことは、本市の官民協働のまちづくりが成功体験に基づき高い次元で確立されている証左であり、今後も官民連携を基軸とし、認定基本計画に基づく次の核事業に取り組みたい。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
市民の中心市街地への意識向上による協働のまちづくり	賑わい感の向上	8%	38%	53%	①	①
中心市街地に共同住宅建設の推進	居住人口	1,093人	1,200人	1,049人	①	①
新規出店舗誘致により商業集積を高める	小売り店舗数	149戸	162戸	162戸	①	①
滞留拠点施設整備とまちなか情報発信により回遊する人々を増やす	歩行者通行量	2,690人	3,700人	3,790人	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

認定基本計画に基づく事業実施により整備された、「フラノマルシェ」「ネーブルタウン」の相乗効果により、「賑わい感の向上」「小売り店舗数」「歩行者通行量」の3目標においては、目標値に達した結果を出している。

これら3目標の数値結果は、事業実施後のふらのまちづくり(株)によるまちなかのコミュニティ再生に向けたまちのトータルマネジメントの効果によるものが大きく、施設来場者数の増進が歩行者通行量の増加を促し、それを見ている市民がまちの活気を肌感覚で感じ、商業者がそこにビジネスチャンスを見出しことにより投資を誘発、それが小売り店舗数の増進に繋がっていることが伺える。

また、「フラノマルシェ」からはじまる一連の取り組みや事業による経済波及効果は、113億4,400万円（出典元：「フラノマルシェはまちをどう変えたか」より）と試算され、波及はまだ増加していくものと分析され、これらが地域内経済循環として確立してきている。

しかしこの一方で、居住人口については前年度数値1,045人に対し、今年度は1,049人であったことから全市的な人口減が続いている中で、中心市街地は辛うじて現状を保っている状況であり、歩行者通行量や地価などの各種数値が上昇に転じている現況を鑑み、引き続き認定基本計画に基づく各種活性化関連事業を展開していくことで、数値目標達成を目指していく。

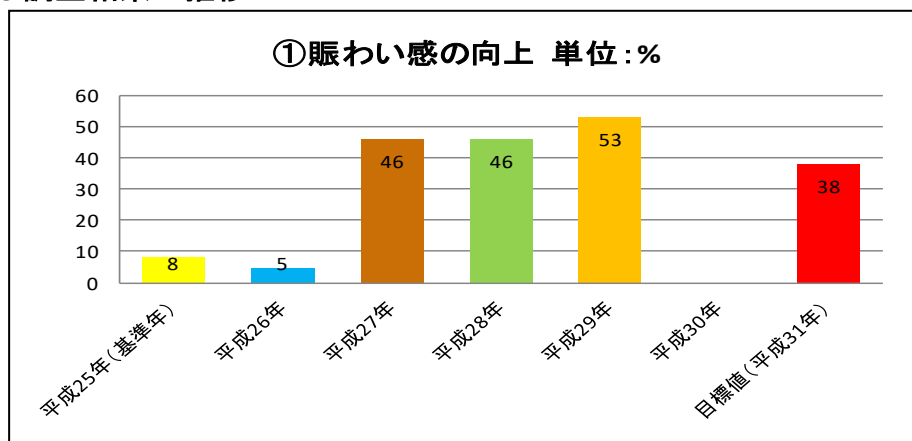
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップから見通しの変更は無い。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

I. 「賑わい感の向上」 ※目標設定の考え方基本計画 P87～P88 参照

●調査結果の推移



年	(単位：%)
H25	8 (基準年値)
H26	5
H27	46
H28	46
H29	53
H30	
H31	38 (目標値)

※調査方法：中心市街地活性化に関する市民アンケート（意識調査）の実施

※調査月：平成30年2月

※調査主体：富良野市

※調査対象：平成30年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている18歳以上の市民を無作為に抽出した約千人

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 「フラノ・マルシェ2」整備事業（コミュニティマネジメント株式会社）

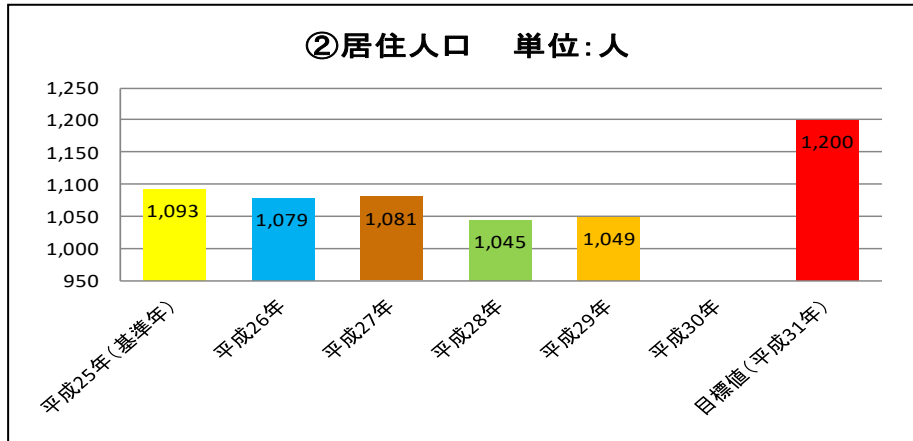
事業完了時期	平成26年度【済】
事業概要	当該事業は、東4条街区地区市街地再開発事業により創出された保留床を国の地域商業自立促進事業費補助金を活用して取得し、そこに小売店舗の商業集積（11店舗）と天候に左右されずにイベント等の実施が可能な全天候型多目的交流空間（タマリーバ）を整備する。
事業効果及び進捗状況	<p>本事業は、既設の「フラノマルシェ」と連動する複合商業施設（フラノマルシェ2）整備により来街者の増加を図り、核拠点から核拠点へと歩行者通行量の増加を促し、中心市街地の賑わいを創出していくものである。</p> <p>前年度の施設（フラノマルシェ+フラノマルシェ2）来場者数約121万人に対し、今年度は約122万人の入込があり、微増であるが、3年連続して100万人以上が中心市街地へ来街していることとなり、中活事業を開始する以前の中心市街地への入込（約10万人）と比較すると飛躍的に改善されたといえる。まちなかの賑わいが戻ってきている状況にある。</p> <p>また、タマリーバでのイベントによる今年度の集客は約1万5千人であり、通年して多くの市民が集う空間として、中心市街地の活気ある状況を直接市民が感じる取ることが出来る場所として機能している。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

目標値を3年連続して大きく上回っており、本市のまちなかの賑わいが市民にも共有できている状況と判断出来る。今後も、この状況を維持していく。

Ⅱ. 「居住人口」 ※目標設定の考え方基本計画 P88～P91 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H25	1,093 (基準年値)
H26	1,079
H27	1,081
H28	1,045
H29	1,049
H30	
H31	1,200 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳の居住人口を調査

※調査月：平成30年3月31日

※調査主体：富良野市

※調査対象：平成30年3月31日現在の住民基本台帳による中心市街地（30ha）の居住人口

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 【平成29年度追加】まちなか居住促進助成（引っ越し助成）事業（富良野市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	当該事業は、継続的なまちなか居住を推進していくため、中心市街地にある民間賃貸住宅への入居希望者へ引っ越し費用の一部を助成し、歩いて暮らせる居住空間創出を図る。
事業効果及び進捗状況	この事業は、中心市街地への居住を誘導していく目的で、平成29年6月に「まちなか居住促進助成条例」を制定し、同月から運用している。 今年度の実績は、3件の適用と当初見込みを下回る結果となったが、これは、年度途中からの運用、制度内容の広報・PRの不足、活用促進を図る住民周知の不足等があげられる。また、今年度の中心市街地区の共同住宅建設は2棟18室であり、この物件の入居開始が次年度以降であることから、新築物件の数や時期的なものにも影響されると考えられる。しかしながら、事業開始初年度であることから、分析素材としての各種数値やデータ等の収集を優先し、当面は、広報・PRを中心に制度の浸透を図っていく。

②. 東4条街区地区市街地再開発事業【ネーブルタウン】（ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	平成27年3月（社会資本整備総合交付金事業）【実施済】 平成28年2月（市街地再開発事業終了認可）【実施済】
事業概要	「フラノマルシェ」に隣接する、北側約1.7haの既成市街地に市街地再開発事業により、日常生活に必要な様々な都市機能と居住空間をまちなかに集積し、歩いて暮らせる利便性に富んだコンパクトシティの形成を図る。 都市機能：複合商業施設（フラノマルシェ2）、サービス付き高齢者向け住宅、認可保育所、内科クリニック、マンション、個

	<p>人店舗、全天候型多目的交流空間</p> <p>当該事業は既に事業完了し、まちなか居住を促進していく事業として18戸の居住用マンションを整備し、運用している。入居状況については、供用開始来全室満室（完全入居）という状況が続いているが、入居世帯の世帯当たり人数を当初は2人を見込んでいたが、単身世帯での入居も多いことからマンション入居者36名に至っていない状況である。</p> <p>また、本事業の官民連携に基づいた施設である市立保育所（虹いろ保育所）は、立地的利便性や建物設備等施設環境が大きく向上したことから開所来高い入所率を維持しており、子育て世代をまちなか居住へと誘導する都市機能として大きな役割を果たしていると同時に市民からは、高い需要があることを裏付けている。</p> <p>その一方で、サービス付き高齢者向け住宅は、入居対象者が健常高齢者ばかりではなく介護（介助）サービスを必要としている高齢者ということもあり、当初見込みと違い単に居住機能というよりは福祉施設の機能を利用者が求めている状況である。そこに全国的な働き手不足の状況が重なり、事業者は介護及び看護等の有資格者を常に募集している状況であるが、業界そのものが人材不足に陥っていることから、その確保が非常に困難であり、慢性的な職員不足により全36室を満室に出来ない状況が続いている。</p> <p>課題解決に当たっては福祉制度全般の問題や景気経済的側面など外的要因が占め、事業者努力や地域行政課題としての対処では限界があることから、事業者は人材確保に向けての募集広告を継続し、行政はどのような支援策が有効か関係者（機関）との意見交換会を開催するなど現状打開に向けた行動に取り組んでいる。</p>
事業効果及び進捗状況	

③. 東5条3丁目地区市街地再開発事業（ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	<p>東4条街区地区市街地再開発事業により整備された、通称ネーブルタウン北側に隣接するエリア（東5条3丁目地区）の既存商業店舗の再集積や住空間を創出することにより、都市機能が集約されたコンパクトシティの形成を図る。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>本事業は、平成27年に「富良野市東5条3丁目街区地区再開発準備会」が設立され、東5条3丁目街区地区再開発準備段階推進事業として実施主体のふらのまちづくり㈱と準備会役員による権利者の個別意向確認や権利調整等が継続して実施されている。</p> <p>現在、大型商業店舗の空きビル再生事業である「フラノ・コンシェルジュ整備」（特定民間中心市街地経済活力向上事業計画に認定）を最優先中活事業と位置付け、「東5条3丁目地区市街地再開発事業」より先行し官民連携にて取り組んできたことから、本事業は当初予定より大きく遅延している状況である。</p> <p>しかしながら、「フラノ・コンシェルジュ整備事業」は当初計画のとおり今</p>

	<p>年度で事業完了し、今後は事業主体であるふらのまちづくり(株)が「東5条3丁目地区市街地再開発事業」に傾注出来る態勢となった。</p> <p>今年度においては、国の地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）を活用してタウンマネージャー（専門人材）を招聘し、認定基本計画の核事業として整備した「フラノマルシェ」「ネーブルタウン」に続く連続性ある市街地再開発事業を展開する為、建築的知見から個別商店に対する助言や基本コンセプト案策定等を実施し、本格的事業着手に向けた権利者の当事者意識掲揚に努め事業推進を図っている。</p>
--	--

④. まちなか居住推進会議事業（富良野市中心市街地活性化協議会）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	<p>富良野市中心市街地活性化協議会運営委員会の「まちなか居住推進会議（まちなか居住専門部会）」により、フォーラム開催及び集中相談窓口を開設することにより、行政との連携を図り建設未利用地の有効活用の提案やまちなか居住の利便性をPRしまちなか居住の推進を図っていく。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>今年度においては、中心市街地内（30ha）で2棟（18戸）の共同住宅の建設があったが、年度末の施工であり今年度の入居に至っていないことから、直接的な効果には繋がっていない。</p> <p>しかしながら、今年度当該建物が建築された土地は、ネーブルタウンに隣接する長年空地状態が続いていた土地であったが、4年連続した中心市街地の地価上昇（路線価、基準地価）や中活事業実施によるまちなかの利便性向上等の相乗効果が現れ、建設未利用地だった土地の有効利用に繋がっていったものと考えられる。</p> <p>今後も本事業の取組を継続しながら、まちなかの建設未利用地や老朽化した建築物の建替えなど、まちの変化を常に観察し、状況分析に努めていく。</p>

⑤. ふらのまちづくり(株)による直接建設投資（ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	平成29年度【未】
事業概要	<p>ふらのまちづくり(株)による、まちなか居住増加に資する直接的な建設投資として、サービス付き高齢者向け住宅と子育て世代を対象としたまちなか共同住宅を建設する。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>本事業は、認定基本計画で「公益的ディベロッパー」として位置付けられているふらのまちづくり(株)が中心市街地の居住人口増加の牽引役として、サービス付き高齢者向け住宅及び子育て世代対象の共同住宅を建設し、居住人口の拡大と同時にまちなか就労者の増加による中心市街地の活性化を図る計画であった。しかし、平成28年に中心市街地の本市商業の最重要地点に突如として発生した大型空き店舗ビルの再生（フラノ・コンシェルジュ整備事業）を商店街の存続に係る中心市街地の最優先課題として、ふらのまちづくり(株)を中心に、国の特別な措置（特定民間中心市街地経済活力向上事業計画</p>

の経済産業大臣認定)を受けながら事業展開していくこととなり、最終的な総事業費も約7億5千万円にのぼると見込んでいることから、ふらのまちづくり(株)の企業体力的にも多角的事業展開が現状困難な状況にある。

また、サ高住の需要そのものは高い需要が見込まれているが、昨今の人手不足の影響を受け、東4条街区地区市街地再開発事業のその後においても施設従業員の確保が非常に厳しい状況に直面していることから、現実的に計画認定時には想定し得なかった外部環境変化も勘案せざるを得ない状況が発生している。

しかしながら、今年度は「移住(1・Uターン)促進・勤労者住宅整備事業」(実施主体:富良野商工会議所)を中活計画に追加し、事業目的は違うが、まちなか居住推進に資する事業であり、まちづくり(株)だけに過剰な負荷を集中させるのではなく、それぞれの機関が出来得る事業を実施することにより居住人口増進に努めている状況である。

今後は、官民連携に基づく、それぞれの実施機関による役割分担も現実路線としてトータルマネジメントを実施しながら、ふらのまちづくり(株)が早期に事業着手出来るような環境整備を図る必要がある。

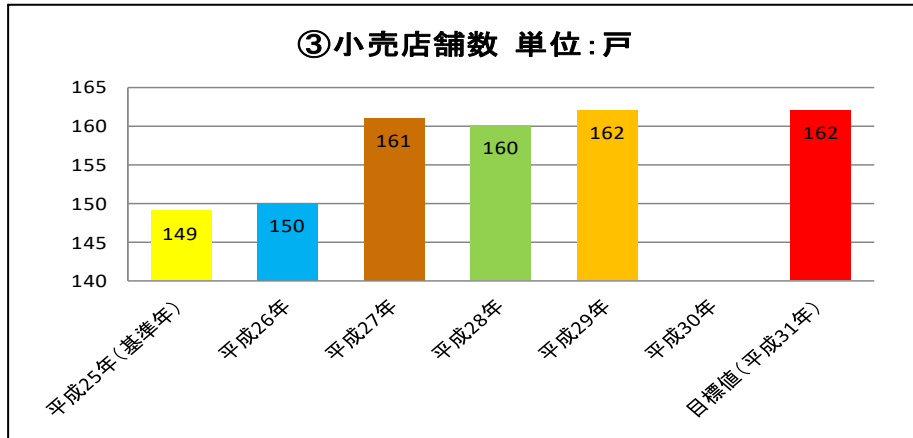
●目標達成の見通し及び今後の対策

前年度比較では、微増のほぼ現状維持といえる状況であるが、数値が伸びない状況にある。この状況の改善を目指し、今年度は市が実施する「まちなか居住促進助成事業」をはじめ、認定基本計画で今年度追加事業として位置付けた「移住(1・Uターン)促進・勤労者住宅整備事業」(実施主体:商工会議所)の推進を、まちなか居住の増進を官民連携して図っていく。

また、「フラノ・コンシェルジュ整備事業」を特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定を受けた事業として本計画に追加し優先的に着手した関係上、「東5条3丁目地区市街地再開発事業」の基本計画策定はじめ全般的に遅延している状況であるが、今年度は、ふらのまちづくり(株)が事業主体となり経済産業省の中心市街地活性化推進事業(専門人材活用事業)を活用し、基本構想策定や計画立案等の作業に着手しており、次年度もこれら作業を継続する予定であり、社会資本整備総合交付金事業採択を目指し、準備及び権利者の合意形成を図る。

Ⅲ. 「小売り店舗数」 ※目標設定の考え方基本計画 P91～P92 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H25	149 (基準年値)
H26	150
H27	161
H28	160
H29	162
H30	
H31	162 (目標値)

※調査方法：建築確認申請及び中小企業振興総合補助金の利用状況を調査

※調査月：平成30年3月31日

※調査主体：富良野市

※調査対象：平成29年3月31日現在の市独自調査による中心市街地（30ha）の小売店舗数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 富良野市中小企業振興総合補助金（富良野市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	中心市街地を中心にして市内の商工業振興を目的に、新規出店者の誘致拡大及び既存中小企業の事業実施を後押しするため、各種補助事業を実施し魅力ある商店街の維持・形成を図っていく。
事業効果及び進捗状況	<p>今年度の本制度の利用実績は、全市で32件の利用実績であり、うち中心市街地での利用実績は18件と半数以上が中心市街地での利用である。</p> <p>制度創設から6年が経過し、店舗等新築改修費補助事業をはじめ新規出店家賃補助事業など今年度は8つのメニューで構成され、商業者（起業家）の支援を実施している。</p> <p>特に、店舗等新築改修費補助事業の実績が5件、新規出店家賃補助事業が6件と高い利用実績となっており、これらの数値から、店舗経営に係る直接的な支援に商業者の潜在需要があると見込まれる。</p> <p>こうした支援措置は個人商店の経営環境を安定させ、商店街の維持存続にも大きく寄与するものであり、空き店舗が少ない商店街の存在は、商業地価格の維持にも影響していくなど連鎖的に繋がっていくことから、互いの役割分担による官民連携による中心市街地の活性化＝商業活性化を一層推進していく。</p>

②. 東4条街区地区市街地再開発事業【ネーブルタウン】（ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	平成27年3月（社会資本整備総合交付金事業）【実施済】 平成28年2月（市街地再開発事業終了認可）【実施済】
事業概要	「フラノマルシェ」に隣接する、北側約1.7haの既成市街地

	<p>に市街地再開発事業により、日常生活に必要な様々な都市機能と居住空間をまちなかに集積し、歩いて暮らせる利便性に富んだコンパクトシティの形成を図る。</p> <p>都市機能：複合商業施設（フラノマルシェ2）、サービス付き高齢者向け住宅、認可保育所、内科クリニック、マンション、個人店舗、全天候型多目的交流空間</p>
事業効果及び進捗状況	<p>当該事業は既に事業完了し、まちなかの新たな商業集積としてオープン当初は11の新店舗が営まれていたが、現在は、「フラノマルシェ」含めた店舗全体の配置見直しにより、「フラノマルシェ2」には10の店舗が営業している。</p> <p>今年度のフラノマルシェ・フラノマルシェ2の施設来場者数は、過去最高の約122万2千人となり、本市の中心市街地活性化の象徴的施設として、まちづくりを牽引している。</p> <p>今後もこの状況を持続出来るよう、互いの役割分担に基づく官民連携による中心市街地の活性化を推進する。</p>

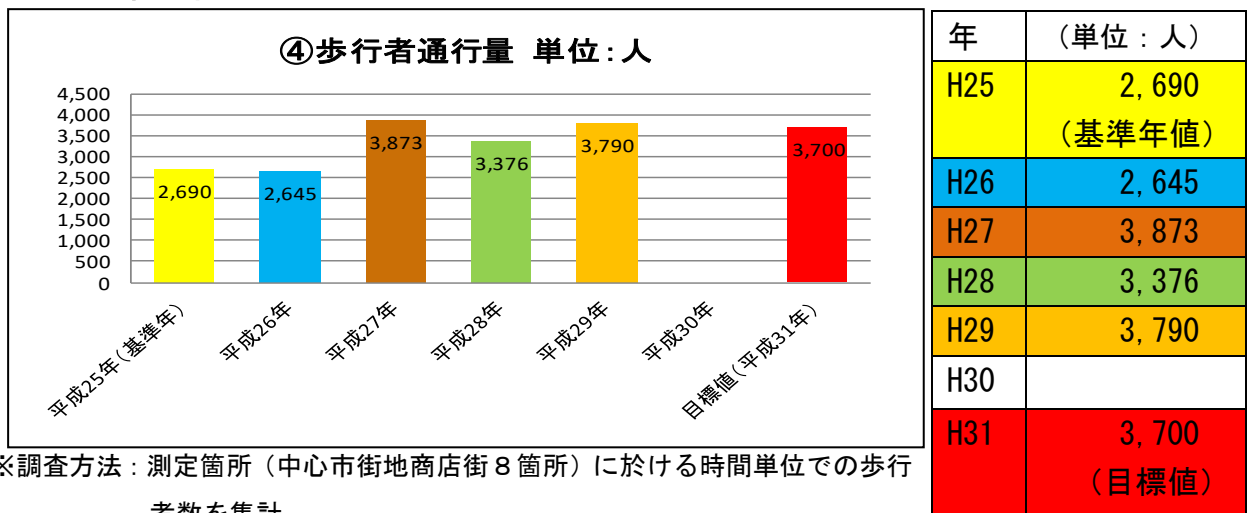
●目標達成の見通し及び今後の対策

今年度は、数値目標としている162店舗に計画開始来3年目に到達することが出来た。

今年度は、新たに13の店舗が中心市街地に出店し、これに対し11の店舗が閉店及び地区外移転等であったことから、空き店舗が発生したらそこに新たな店舗が出店するという状況が続いている。今後は、この状況を維持すべく制度の維持及びブラッシュアップに努めていく。

IV. 「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P92～P97 参照

●調査結果の推移



※調査方法：測定箇所（中心市街地商店街8箇所）に於ける時間単位での歩行者数を集計

※調査月：平成29年5～10月までの間の任意日（合計14回計測）

※調査主体：富良野市及び富良野商工会議所

※調査対象：測定箇所を通行する歩行者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 【平成28年度追加】「フラノ・コンシェルジュ整備事業」（ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	平成29年度【済】
--------	-----------

事業概要	<p>本事業は、2つの商店街に面する本市の重要商業地点において発生した大型商業店舗空きビルを取得し、来街観光客及び市民に対しての中心市街地商店街コンシェルジュ機能を核とし、富良野圏域観光情報の発信、着地型観光商品販売、シェアオフィス、宿泊、飲食、イベントスペース等を配置し多機能複合型ビルへと再生することにより、商店街歩行者通行量の増加を図る。</p> <p>また、国の地方創生に基づき「ふらの版 DMO」の活動集約拠点を当該建物2階に市が配置することにより、中活事業に於ける官民連携が継続実施される。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>国の「平成28年度補正予算地域未来投資促進事業費補助金（まちなか集客力向上支援事業）」（翌債承認事業）に伴う特定民間中心市街地経済活力向上事業計画（特定商業施設等整備事業に係るものに限る）の認定を受け、今年度末事業完了に至る。</p> <p>今後の予定として、平成30年6月1日にオープンし、「観光・滞在・食」をキーワードに「第3のまちの縁側」として機能していく。当該施設は事業実施の1年後には約149,000人の施設来訪者を見込んでおり、歩行者通行量の増進に寄与することを見込んでいる。</p>

②. 東4条街区地区市街地再開発事業【ネーブルタウン】（ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	<p>平成27年3月（社会資本整備総合交付金事業）【実施済】</p> <p>平成28年2月（市街地再開発事業終了認可）【実施済】</p>
事業概要	<p>「フラノマルシェ」に隣接する、北側約1.7haの既成市街地に市街地再開発事業により、日常生活に必要な様々な都市機能と居住空間をまちなかに集積し、歩いて暮らせる利便性に富んだコンパクトシティの形成を図る。</p> <p>都市機能：複合商業施設（フラノマルシェ2）、サービス付き高齢者向け住宅、認可保育所、内科クリニック、マンション、個人店舗、全天候型多目的交流空間</p>
事業効果及び進捗状況	<p>当該事業は既に事業完了し、中心市街地の多機能型複合拠点施設として観光客のみならず、市民生活にとっても必要な機能である医療、福祉の都市機能も有していることから、多くの市民も足を運んでいる状況である。</p> <p>また、全天候型多目的交流空間「タマリーバ」では、今年度は計43回のイベントが実施され、これらイベントで約15,000人の集客があったことから、このような集客がまちなか回遊を下支えしているものと考えられる。</p> <p>「タマリーバ」でのイベント回数比較では、今年度は、前年度に比べ6回減ったものの安定的な集客があり、当施設での施設運営に係る費用の2分の1を市が補助することにより、官民連携が成立し、まちなか回遊を行政が責任をもって支えていくシステムが確立されており、これからもこの状況を継続していく。</p>

③. 東5条3丁目地区市街地再開発事業（ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	東4条街区地区市街地再開発事業により整備された、通称ネーブルタウン北側に隣接するエリア（東5条3丁目地区）の既存商業店舗の再集積や住空間を創出することにより、都市機能が集約されたコンパクトシティの形成を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>本事業は、平成27年に「富良野市東5条3丁目街区地区再開発準備会」が設立され、東5条3丁目街区地区再開発準備段階推進事業として実施主体のふらのまちづくり㈱と準備会役員による権利者の個別意向確認や権利調整等が継続して実施されている。</p> <p>本格的な事業着手はまだの状況であるが、今年度は国の専門人材活用支援事業を活用し、早期の事業実施に向け事業推進を図っている。</p>

④. まちなか居住推進会議事業（富良野市中心市街地活性化協議会）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	富良野市中心市街地活性化協議会運営委員会の「まちなか居住推進会議（まちなか居住専門部会）」により、フォーラム開催及び集中相談窓口を開設することにより、行政との連携を図り建設未利用地の有効活用の提案やまちなか居住の利便性をPRしまちなか居住の推進を図っていく。
事業効果及び進捗状況	<p>今年度においては、中心市街地内（30ha）で2棟（18戸）の共同住宅の建設があったが、年度末の施工であり今年度の入居に至っていない状況であり、この部分においては事業効果が発揮されてはいないといえる。</p> <p>しかし、現状で既に数値目標はクリアされていることから、これからも本事業に継続して取り組む事により、まちなかの建設未利用地等を1つでも減らせることが出来れば、中心市街地の価値を維持している事に繋がる。</p>

⑤. ふらのまちづくり㈱による直接建設投資（ふらのまちづくり株式会社）

事業完了時期	平成29年度【未】
事業概要	ふらのまちづくり㈱による、まちなか居住増加に資する直接的な建設投資として、サービス付き高齢者向け住宅と子育て世代を対象としたまちなか共同住宅を建設する。
事業効果及び進捗状況	<p>本事業は今年度、事業主体が国の特別な措置を受けているフラノ・コンシエールシュ整備事業を最優先し、資本的にも人材的にも多角的な事業展開が困難であることから、事業実施に至っていない。</p> <p>今後は、官民連携に基づく、それぞれの実施機関による役割分担も現実路線としてトータルマネジメントを実施しながら、ふらのまちづくり㈱が早期に事業着手出来るような環境整備を図る必要がある。</p>

⑥. 「サンライズ・パーク」整備事業（富良野市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	<p>市内のほぼ中心に位置する「くにい」跡地周辺に大型バスも駐車可能な「まちなか駐車場」を配置し、商店街への回遊を促進する。</p> <p>また、市民がくつろげる魅力的空間としてポケットパーク機能も併設する。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>まちなか回遊を促す、本市の中心市街地活性化に必要な都市機能として「サンライズ・パーク」＝「まちなか駐車場」を配置する為、今年度は、「旧くにい百貨店」跡地約925㎡を買収した。</p> <p>次年度は、富良野市経済センターを除却解体の後、「旧くにい百貨店」跡地と一体的に駐車場造成工事を実施する。</p> <p>本事業は、当初は市とふらのまちづくり㈱が官民連携して事業実施に当たる予定だったが、ふらのまちづくり㈱が「フラノ・コンシェルジュ整備」に当たる事から、本事業を市のみが実施主体の単独事業として認定基本計画を変更し位置付け、コンシェルジュ フラノと一体となった利活用を行うことで、明確な役割分担に基づいた官民協働を実現させていく。</p> <p>本事業は、今年度と次年度で事業完了の予定であるが、事業完了を待たずして今年度数値目標に到達していることから、施設供用開始後は歩行者通行量の更なる増加が見込まれるところである。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

前々年度に引き続き、目標値を達成することが出来た。歩行者通行量の増大は、「賑わい感向上」と「小売り店舗数」に大きく影響を与える指標であることから、現状に満足することなく更なる増進に向け継続した各種活性化の施策展開を図る。